



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第39号

2022年6月30日発行

ホームページアドレス <http://attaka2018.starfree.jp/>

2011年3月11日の東日本大震災より11年が経過し12年目です。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

総会・合同研修会を終えて……

はじめの一歩から みんなの力で！
 ～継続が育てた21年～

あったかウェルねっと代表
 横田八枝子

「継続は力」であることを実感している。2001年から始動した「彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク」あったかウェルねっとは、多くの仲間たちや関係する人たちにたくさんの知恵をいただきながら歩み続け、今年度はもう22年目になる。

節目の昨年は、あったかウェルねっと20周年事業に続いて、日本福祉教育・ボランティア学習学会第27回埼玉大会にも参画し、県社協はじめ学会の先生方や多くの方々にお世話になり、充実した学びの年になった。

そして、2022年度総会後の研修会は、県社協との合同研修会の運びになり、有り難かった。これまで地域の関係する人たちが積み重ねてきた、「埼玉県の福祉教育の歩み」に、あったかウェルねっと10周年・15周年・20周年の歩みを重ね、みんなが「共に生きる力を育む、福祉教育・ボランティア学習推進の意義と効果」に

ついて、共有し合う貴重な時間がつくれたことに感謝している。

これまでも、子どもたちの私たちの未来に想いを馳せ、世界の日本の埼玉の現状に目を向けてきたが、現実には、コロナ禍の収束も、ウクライナ侵略の終結も、不確実で不安な日々が続いている。

だからこそ、これからも、みんなの「ふだんのくらしのしあわせ」を願い、県域での地域の「学びと実践」を積み重ね、皆で「笑顔の日常」を目指していきたいと思っている。

みなさま、今後とも温かいご協力ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

報告 総会・研修会

2022年度ねっと総会

5月14日(土)9時30分より2022年度総会がこなわれました。コロナ感染状況に鑑み、昨年同様Zoomによるオンライン開催としました。



令和3(2021)年度事業報告・決算報告および監査報告、令和4(2022)年度運営担

当、事業目標と事業計画、予算について審議され、すべての総会議事が承認されました。

総会には、原田正樹先生、県社協の熊井部長がご参加くださり、あったかウエルねっと21年の活動とこれからの寄せて、暖かい言葉と応援メッセージをいただきました。

引き続きオンラインで、2022(令和4)年度研修会を社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会(以下、県社協)と合同開催で行ないました。

2022年度ねっと研修会 (県社協と合同研修)

これからの福祉教育をみんなで考えよう！
地域がつながり広げる福祉教育

総会終了後、研修会をおこないました。11時からの午前の部は佐藤陽先生にご登壇いただき、60分間の昼休みをはさんで、13時から、原田正樹先生、県社協地域福祉部熊井英朗部長を講師に迎え、これからの福祉教育について学びました。

この研修会は、埼玉県社協の第4回“地域福祉推進プラットフォーム”との合同開催のため、各市町村社協職員とあったかウエルねっと関係者多数が集い、スタッフも合わせると90名以上の参加がありました。

2回のグループワークとオンラインラウンドテーブルでの意見交換もあり、ねっと会員、若者への福祉教育研究会メンバー、地域の方々、そして県内外の社会福祉協議会職員など、様々な立場の参加者が学び合い、交流・情報交換しました。

午前の部 開会・あいさつ・趣旨説明・対談

【対談】

「埼玉県の福祉教育とあったかウエルねっと
～地域力・市民力の発信～」

講師 佐藤陽氏(十文字学園女子大学人間生

活学部人間福祉学科 教授)

横田八枝子(あったかウエルねっと代表)

あったかウエルねっと設立の2001年を含め、1970年代から2000年、そして現在の2022年へと時系列で背景を追いながら、対談が進められました。

講師の佐藤陽先生からは、1972～1989年、埼玉県は学校と地域社会における福祉教育が両輪となり、「ボランティア体験から学校と地域における福祉教育の推進」が図られたこと。そして、1990～2010年の「社会参加の促進とともに地域における福祉教育・ボランティア学習の推進」では、2000年に総合的な学習の時間が導入され、埼玉県社協の福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修(2000-2010)が始まったことなど、当時の推進員養成研修プログラムの詳細も示しながらその意義を再確認しました。

最後に、「埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の経緯と特色」として、埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の推進は、ボランティアの促進からはじまり、学校を含む地域社会で、多様な地域住民ひとり一人を地域の主人公と位置づけ、共生の文化づくりを重ねてきたこと、これまで常に学習を実践に紡いできたこと等、20年以上にわたる埼玉県の福祉教育の意義と変遷を改めて学ぶ機会となりました。(詳細は会報37号の学会埼玉大会報告に記載)

また、埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修の修了生有志によって発足し、これまで多様な人材が県域でのネットワークを構築したあったかウエルねっと(2001-2021)の活動経緯についても、横田代表より述べられました。

午後の部 基調講演・基調説明・グループワーク・オンラインラウンドテーブル・まとめ

【基調講演】

「共生社会実現に向けた地域づくり
～地域につながり広げる福祉教育～」

講師：原田 正樹氏（日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 教授）

「地域共生社会」と「共生社会」のことばの整理をしながら、地域共生社会の実現に向けた地域づくりについてご講演いただきました。

地域共生社会の理念では「地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成」し、助け合いながら暮らせる仕組みを構築し、そして、権利としての地域共生社会を目指すとのこと。

「ケアリングコミュニティ」「相互実現」では、個々の自立や受援力が必要としながらも、関係性を大切にした自立観、そして相互実現的自立（依存的自立）も大切。相互に支え合う地域を構築するなど、大きな概念を知りました。

現在の地域共生社会と包括的支援体制が必要な背景も学び、社会的孤立の深まりや負の連鎖を絶つための対人支援に、本人を中心とした伴走型の支援も求められていること等も学びました。誰も取り残されることなく、関係性を重んじながら、ひとり一人が幸せを感じられる社会の実現が待たれます。

社協職員とあったかウェルねっと（多様な地域住民）が共に学ぶ研修会だからこそ、多くの学びが得られたご講演となりました。

【基調説明】

「社協がつながり広げる福祉教育

～埼玉らしい福祉教育の推進～

説明：熊井 英朗氏（埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部 部長）

社会福祉協議会（社協）は、社会福祉法に「地域福祉を推進することを目的とする団体」と規定されており、地域住民・関係機関等、多様な主体とのつながりが土台にある地域福祉の実践は社協の強み、という説明を受け、「シャキョウ」について改めて見直す機会となりました。

すべての地域福祉活動、社協活動には福祉教

育の機能（気づき、学びあい）があるとの言葉に、参加者それぞれの活動に重なるものを感じつつ、県社協が取り組んできた福祉教育の歩みでは、あったかウェルねっとの活動を支え、連携・協働の経緯を再認識しました。

また、多様な関係者による学び・集いの場である地域福祉推進プラットフォームの推進では、「つどう・つながる・つくる」というキーワードが示され、参加者それぞれの活動にも通じるものようでした。

終わりに、福祉教育の機能強化、事業の充実のために、「ともに生きること」の大切さを育む「共に生きる『ふ・く・し』について」という福祉教育パンフレットが紹介されました。

社協がめざす「誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現（＝地域共生社会の実現）」には、多様性を受け入れ、エンパワメントしあい、多様な主体による福祉教育の協同実践が必要、と結ばれました。

【グループワーク①】

「私たちが出来る福祉教育実践その1

【グループワーク②】

「私たちが出来る福祉教育実践その2」

組み合わせを変えて2回のグループワークをおこないました。（一部は入れ替え無し）

コロナ禍で会うことが少なかったので、オンラインではあってもたくさん情報交換できるよう、まずは同じような活動をしている方同士の組み合わせで、そして2回目は、地域別や活動別の組み合わせでおこないました。

ねっと会員と社協職員との情報交換が活発におこなわれました。

【オンラインラウンドテーブル】

「つながり広げる福祉教育

～これからの福祉教育をみんなで考える～

全体会に戻り、様々な意見・問題点をみんなで聴き合いました。

<参加者アンケートより>

○あったかウェルねっとの歴史とそこに関わってきた市民の人達との活動の様子が良く分かった。

○社協と住民・ボランティアの地道な協力態勢が埼玉の福祉教育の根底にあることを再認識した。

○「福祉」に対して関わる人たちがお互いに学び合うという視点が自分にはなかったので、とても新鮮であると同時に今の教育に最も必要な事だと思いました。

○基本的なところから話が始まり、理解がしやすかった。「地域福祉は福祉教育に始まり、福祉教育に終わる」を再認識できた。

○「社協活動に福祉教育の機能がある」の言葉がすっと腑に落ちました。社協事業の中でも地域支援・個別支援等縦割りになっていると感じました。「社協活動に福祉教育の機能がある」この言葉の理由を自分の言葉で伝えられるようにまずはなりたいと思いました。

○トータル4時間のプログラムはさすがに長いと思っていましたが、終わってみるとあっという間でとても楽しい時間でした。特に、グループワークは身近で参考になりました。ありがとうございました。

○今回初めての参加でしたが、福祉教育や社協職員として気づかされることも多く、とても有意義な時間となりました。

～*～*～

この研修は、県社協「第4回地域福祉推進プラットフォーム」との合同研修でおこなわれました。県社協よりコメントをいただきました。

【県社協よりコメント】

「立場は違っても、福祉教育を推進したいという目的は同じ！」という熱い気持ちを持って、今回、地域福祉推進プラットフォームとあったかウェルねっと研修会との合同開催を実現できました。ご参加・ご協力ありがとうございました。

埼玉県福祉教育に欠かせない原田正樹先

生や佐藤 陽先生、横田八枝子代表に、これまでの福祉教育の歩みやこれからの目指すべき方向などのご講演をいただき、たくさんの気づきや学びがありました。また、グループワークやオンラインラウンドテーブルでは、あったかウェルねっとの皆様、社協職員など活発な意見交換がなされ、参加した社協職員からは、福祉教育に熱心に取り組んできた活動者の皆さんの声が聞けて良かったとの意見が多数ありました。

県社協では、「誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現（＝地域共生社会の実現）」には、多様性を受け入れ、エンパワメントしあい、多様な主体による福祉教育の協同実践が必要と考えています。今後もあったかウェルねっとの皆様と手を取り合い、福祉教育を推進してまいりたいと思います。引き続きご協力をお願いいたします。

お知らせ まなびばしゃべりばカフェ

まなびばしゃべりばカフェは自由な発想での学びを推進員が中心になって企画しています。より親しみやすい情報交換の場として、幅広く誰もが参加できる場です。どなたでも参加できますので、どうぞご参加ください。

まなびばしゃべりばカフェ 2022 夏カフェ

“ともに生きる『ふ・く・し』について”
を作成して
～埼玉県社協発行の福祉教育パンフレットに込められた思いって？～

日時：7月21日（木曜）午後2時～3時30分

場所：Zoomによるオンライン開催

話題提供者：片桐 啓太氏

（埼玉県社協 福祉人材センター）

令和4年3月に埼玉県社協が福祉教育パン

フレット「ともに生きる『ふ・く・し』について」を発行されました。作成にあたり、どのような経過があったのか、また、どんな思いが込められているのか、担当された片桐さんに篤く語っていただきます！

…申込み方法…

※事前の申込みをお願いします。

件名「2022夏カフェ」として、メールでお申し込みください。氏名・連絡先・市町村・所属を明記してください。

申込先：ねっと事務局（須田）

メールアドレス attakawelnet@gmail.com

※申し込みをした方には、前日までにZoomの招待メールをお送りします。

※[県社協からの情報]掲載の「第5回地域福祉推進プラットフォーム」(7/26・火)も受講すると、「ともに生きる『ふ・く・し』について」をよりよく理解でき、地域での活用に役立つことでしょう。どうぞご参加ください。

また、「ともに生きる『ふ・く・し』について」紹介記事は、ねっと会報第38号（前号）6ページ「県社協からの情報」にも掲載しています。

報告 県内の市社協で養成講座

あったかウェルねっと事務局長
須田正子

6月10日（金曜）、狭山市社会福祉協議会の福祉体験学習サポーター養成講座 第1回「福祉教育の醍醐味～温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」で講師を務めました。あったかウェルねっとの活動とともに、福祉教育・ボランティア学習で大事にしている福祉の心を精一杯お伝えしました。

これから小中学校にサポーターとして活躍される予定の受講生の方々が熱心に聴いてくださり、質疑応答も活発に交わされました。地域で

のご活躍を願っています。

会費納入のお願い

会計より一會費納入のお願い一

5月14日に総会が終了し、2022年度がスタートしています。昨年度から会費の納入は口座振り込みとなりました。ねっと活動は皆様の会費で運営しておりますので、お手数ですが皆様のご協力をお願いいたします。

★会費

正会員 1,000円/年

賛助会員 一口500円（何口でも）

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

銀行振込が難しい方は事務局までご連絡ください。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

県社協からの情報

「第5回地域福祉推進プラットフォーム」

今回は「学校に！地域に！今こそ伝えたい『ともに生きるふ・く・し』」をテーマに開催します。

埼玉県社協が発行した福祉教育啓発パンフレット「ともに生きる『ふ・く・し』について」の活用事例の紹介や地域、学校で福祉を伝えるうえで大切にしたい視点等について、グループワークを交えながら情報交換を行います。



アドバイザーには坂本晃一氏(あったかウェルねっと世話人)をお招きしますので、皆様ぜひご参加ください。

日時:7月26日(火)13:30~15:30

実施方法:オンライン(ZOOM)

参加対象者:社協職員、教員、ボランティアなど
地域福祉に関心のある方どなたでも

申込フォーム

(7月19日締切):



<https://ws.formzu.net/fgen/S14694472/>

彩の国ボランティア体験プログラム ~できることからはじめよう!~

ボランティアに興味や関心があってもなかなか一歩を踏み出せない、どう始めたらいいのかわからないという方のために、埼玉県全域で展開しているプログラムです。(平成7年から始まり、累計50万人以上が参加)



ボランティアとはどんな活動なのか、どんなことに気を付けたらよいのかなど、ボランティア活動のきっかけとなっています。子どもから大人まで参加できるよう感染症対策をとり、コロナ禍であってもできるメニューを多数用意しています。関心のある方にぜひご案内ください。

関心のある方にぜひご案内ください。

事務局情報

情報提供のお願い

~各地域の福祉教育情報をお寄せください~

日頃の活動や地域の状況、感じたこと、福祉課題などの情報を、会報、メーリングリストその他で共有できたらと願っています。

また、まなびばしゃべりばカフェの企画案など、皆さまからの情報をお待ちしています。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

メールアドレス attakawelnet@gmail.com

会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会費(年1000円、賛助会員一口500円)で運営しています。会費納入方法は原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

振込先:埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号:5015782

名義:彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

メーリングリストの登録

会員・賛助会員の方にメーリングリスト(ML)で情報をお届けしています。登録アドレスの申し込みや変更がありましたら事務局までお知らせください。ML登録は事務局で行ないます。

事務局アドレス:attakawelnet@gmail.com



編集後記

例年になく早い梅雨明け、そして猛暑の日々が続いています。コロナ禍の暮らしも3年目となり、ますます体調管理が大切です。

対面のイベントも少しずつ増えているようですが、交流の機会を持てるのは嬉しいこと。感染対策に磨きを掛けて、安心安全な交流・学びの場を持ちましょう。

なお、若者への福祉教育研究会コーナーは紙面の都合上、お休みとさせていただきました。

発行:彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク(通称:あったかウェルねっと)
編集:あったかウェルねっと(情報担当)
連絡先:埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課
TEL:048-822-1435 FAX:048-822-3078
Mail:vc@fukushi-saitama.or.jp